

〈第6回月例セミナー〉

演者: 岩永 俊彦 (北海道大学医学研究科・教授)
演題: 腸管免疫と免疫系による腸上皮のホメオスタシス
日時: 2008年11月18日(火)
担当研究室: 環境生理学研究室(桑原厚和)

北海道大学大学院・岩永教授に、腸管免疫についての講演をしていただいた。先生の研究により腸管上皮の再生は従来考えられてきたように単に粘膜上皮が管腔内に脱落するのではなく、アポトーシスにより粘膜固有層のマクロファージによる貪食作用によっても更新しているという新しい知見が示された。

〈第7回月例セミナー〉

演者: 遠藤 卓郎(国立感染症研究所客員研究員)
演題: 水系感染症—水道水を介した感染症を中心に—
日時: 2008年12月16日(火)
担当研究室: 環境政策研究室(国包章一)

遠藤卓郎先生は、先頃まで国立感染症研究所寄生動物部長を務められた方で、わが国では今や貴重な寄生虫の専門家であり、しかもこの分野の第一人者である。講演では、過去にわが国の水道で大規模な集団感染を引き起こした原虫クリプトスポリジウムを中心に、レジオネラやウイルスを含め水系感染で問題となる病原微生物全般につき、最新の研究成果などを紹介していただいた。ユーモアと示唆に富んだお話は、大学院生はもとより教員にとっても非常に有意義なものであった。

3-4. 2007・US フォーラム

US フォーラム(静岡県立大学フォーラム)が8月1日と8月2日の両日にわたり開催された。本フォーラムは平成19年度に採択された学長特別研究費、教員特別研究費による研究成果を発表する成果発表会である。以下に本研究関連の演題を示す。なお、研究代表者には下線を、発表者には○を付した。

【口頭発表】

1. 坂田昌弘, ○谷 幸則, 大橋典男, 大浦 健, 橋本伸哉, 雨谷敬史: 汽水湖における富栄養化が生態系に与える影響の解明—佐鳴湖をモデルとして—. 要旨集 p. 20 (2008年8月1日).
2. ○岩堀恵祐, 坂田昌弘, 谷 幸則, 小川 浩, 宮田直幸: 異化的鉄還元反応を活用した重金属類の生物学的吸着除去. 要旨集 p. 21 (2008年8月1日).
3. ○橋本伸哉, 坂田昌弘, 谷 幸則, 藁科 力: 日本沿岸海域におけるハロカーボンの分布と大気へのフラックスに関する研究. 要旨集 p. 22 (2008年8月1日).
4. ○雨谷敬史, 下位香代子, 大浦 健, 榊原啓之: ハロゲン化多環芳香族炭化水素の環境リスク評価に関する研究—高感度分析法の開発ならびに生態影響評価—. 要旨集 p. 23 (2008年8月1日).
5. 前坂俊之, 岩堀恵祐, 小幡 壮, 五島文雄, 小針 進, 玉置泰明, 前山亮吉, 森山優, 白石葉子, ○比留間洋一: 「岡村昭彦文書の利活用に関する学部際的研究と実践」の活動報告. 要旨集 p. 31 (2008年8月1日).
6. ○熊沢茂則, 合田敏尚, 榊原啓之, 下位香代子: ベリー系果実に含まれるアントシアニン類の分析と生理活性評価. 要旨集 p. 90 (2008年8月2日).

7. **○岩堀恵祐, 坂田昌弘, 谷 幸則, 宮田直幸:** バイオマグネタイトの高密度集積培養系の構築とその菌叢解析. 要旨集 p. 92 (2008年8月2日).
8. **桑原厚和, ○唐木晋一郎, 田副秀章, 杉谷博士:** 消化管に発現している化学受容細胞の組織化学的研究. 要旨集 p. 93 (2008年8月2日).
9. **○伊吹裕子, 豊岡達士:** エピジェネティクス異常を標的とした新規光増感法に関する研究—ヒストン脱アセチル化阻害剤と光増感剤による効率的細胞死の誘導とそのメカニズム—. 要旨集 p. 94 (2008年8月2日).
10. **○丹波康夫, 谷 幸則, 森安裕二:** 被覆栽培による茶葉成分変動の解明. 要旨集 p. 102 (2008年8月2日).

【ポスター発表】

1. **○大田敏郎, 加治和彦, 大橋典男, 藤盛好啓, 内藤博敬, 江口良二:** 虚血誘導管腔崩壊のプロテオミクス解析. 要旨集 p. 133 (2008年8月2日).
2. **○寺崎正紀, 伊吹裕子, 豊岡達士, 谷 幸則, 牧野正和:** 製紙排水に含まれる環境汚染物質の生体影響ならびに流域水圏の環境リスク評価に関する研究. 要旨集 p. 135 (2008年8月2日).
3. **坂口真人, ○岩村 武:** 緑茶抽出物を利用した有機—無機ポリマーハイブリッドの合成—新規吸着材料の可能性—. 要旨集 p. 136 (2008年8月2日).
4. **○大橋典男, 内藤博敬, 川森文彦, 廣井みどり:** 鹿児島県のマダニから検出されたリケッチア関連細菌 DNA の分子遺伝学的解析. 要旨集 p. 137 (2008年8月2日).
5. **○下位香代子, 榊原啓之, 竹村ひとみ, 松田知成:** ベンツ(a)ピレンにより生成する DNA 付加体の LC/MS/MS による解析. 要旨集 p. 138 (2008年8月2日).
6. **佐野慶一郎, ○吉岡 寿:** 廃棄カニ殻から生産したキトサンの有効利用に関する研究. 要旨集 p. 139 (2008年8月2日).
7. **○牧野正和, 寺崎正紀, 西下 司, 山田健太:** 巴川を対象とした抗菌性薬剤の分析・評価に関する研究. 要旨集 p. 140 (2008年8月2日).
8. **○谷 晃, 塩澤竜志:** 良好な大気環境の維持に寄与する植物のガス交換機能の解明—植物の有機ガス吸収能力の評価—. 要旨集 p. 141 (2008年8月2日).

【紙面発表】

1. **○池田哲夫, 星野 稔, 渡辺達夫, 園田明人, 鈴木直義, 小林みどり, 西田公昭, 福田 宏, 湯瀬裕昭, 武藤伸明, 渡邊貴之, 堀江信之, 牧野正和:** 静岡県立大学における高度情報リテラシー教育へむけて. 要旨集 p. 155.
2. **佐野慶一郎, 斎藤奈々子, 森 智和:** 廃茶やワイン搾り滓に含まれるポリフェノールを用いた消臭処理の研究. 要旨集 p. 157.
3. **○雨谷敬史, 久米一成, 大浦 健:** 活性炭ハニカムなどを利用した有害化学物質低減対策の評価. 要旨集 p. 175.
4. **岩堀恵祐, ○谷 晃, 塩澤竜志, 斎藤貴江子:** 静岡県の環境保全型林業振興に関する基礎研究—環境制御型挿し木法による発根均一化の試み—. 要旨集 p. 176.
5. **岩堀恵祐, 岩村 武:** 架橋高分子材料のケミカルリサイクル系の構築. 要旨集 p. 177.
6. **岩堀恵祐, ○榊原啓之:** 日常生活排水, 特に麺類茹で汁の使用法の提案を目指した生物学的研究. 要旨集 p. 178.
7. **坂口真人, 岩村 武:** マイクロ波照射を利用した省エネルギー型酸化亜鉛微粒子の合成. 要旨集 p. 258.
8. **桑原厚和, ○唐木晋一郎:** ヒト大腸での GPR43 の発現動態について. 要旨集 p. 259.

9. **大橋典男, ○内藤博敬**: 環境中からの微生物単離と海水および淡水の殺菌処理法の検討. 要旨集 p. 260.
10. **伊吹裕子, 豊岡達士**: 高い環境浄化性能を有する DNA コート二酸化チタン粒子の開発. 要旨集 p. 261.

3-5. 環境化学会公開セミナー

担当: 雨谷敬史

環境化学会との共催により, 環境化学会公開セミナーを8月9日(土)14時~17時に, 静岡音楽館 AOI で開催した. また, 公開セミナーに先立ち, 13時から高校環境化学会賞の授賞式と, 受賞校による対象となった研究内容の紹介が行われた. 公開セミナーは, 「未来の気候変動・地球温暖化を乗り切る知恵」をテーマに, 以下の3題の講演と, 質疑応答が行われた.

「バイオマスエネルギーの展望」 森田昌敏・愛媛大学教授・日本環境化学会会長

「気候変動を乗り切る21世紀社会の姿は?」 野尻幸宏・国立環境研究所・地球環境研究センター副センター長

「温暖化時代を乗り切るために必要なこと」 柳沢幸雄・東京大学教授

実際に第一線で地球温暖化関連研究を行っている3名の先生方の講演を伺うことができ, 高校環境化学会賞を受賞した高校生からも質問が出るなど, 有意義な時間となった. 本セミナーは, 100名を超える方に来場いただき, 盛況・好評のうちに終了した.

3-6. 国際シンポジウム “The 2nd China-Japan International Symposium on Indoor Air Pollution and Control” の開催

静岡県立大学との協定校でもある中国浙江大学の環境資源学院朱教授との共同研究の一環として, 本年度には12月20日(土)に, ホテルアソシア静岡ターミナルで, 室内環境に関する国際シンポジウムを開催した.

中国側からは, Weirong ZHAO 副教授, Kun YANG 副教授, Shuang LI 氏(大学院生)が, 日本側からは, 雨谷敬史・静岡県立大学准教授, 柳沢幸雄・東京大学教授, 関根嘉香・東海大学准教授, 山本尚理・東海大学 PD, 山下晶平氏(静岡県環境衛生科学研究所), 鴨井昌司氏(静岡県立大学大学院生)が, 室内環境に関して, 室内空気質の実態把握, 有害化学物質の分析法, 汚染対策などに関わる発表を行った.

本シンポジウムは, JST(科学技術振興機構)・戦略的国際科学技術協力推進事業・「有害化学物質の室内および個人暴露の国際比較とその低減対策」の一環として開催されたもので, 今後も継続して開催することを検討していきたい.